

様式第3号

研修報告書（研修費）

平成30年5月23日

長久手市議会議長
川合 保生 様

長久手市議会議員 上田 大 ㊞

政務活動費を充てることができる経費の範囲の運用指針により次のとおり届け出ます。

年 月 日	平成30年4月23日（月）から 平成30年4月23日（月）までの1日
研 修 先	第3回日経2020フォーラム 『テクノロジーが彩る2020年のニッポン』 主催：日本経済新聞社 会場：日経ホール（東京都） (詳細は別紙)
成 果	(別紙のとおり)
経 費	金23,120円（政務活動費対象経費） 金23,120円（全体経費）
提 出 資 料	(別紙のとおり)

行程表 (平成30年4月23日)
『日経2020フォーラム テクノロジーが彩る2020年のニッポン』

藤が丘駅 → 名古屋駅 → 東京駅 → 大手町駅 →
 市営地下鉄東山線 JR新幹線 東京メトロ丸ノ内線 徒歩
 日経ホール(千代田区)

日付	項目	行程	金額	備考
4月23日	交通費	東京⇄名古屋	22,180	新幹線(JR東海)
4月23日	交通費	東京⇄大手町	340	地下鉄(東京メトロ)
4月23日	交通費	名古屋⇄藤が丘	600	地下鉄(名古屋市交通局)
		合計	23,120	

別紙

研 修 内 容	<p>13 : 30～14 : 00 基調講演① 「水素社会の扉を開く」 杉森 務 JXTG エネルギー 代表取締役社長</p> <p>14 : 00～14 : 30 基調講演② 「スポーツの魅力を高める ICT」 山本 正己 富士通 取締役会長</p> <p>14 : 30～16 : 00 パネル討論 「スポーツと技術が紡ぐ未来」</p> <p><パネリスト> ニコレッタ・ピッコロロヴァッツィ 米ダウ・ケミカル オリンピック&スポーツソリューション事業部 技術・持続可能性担当ディレクター 澤邊 芳明 ワントゥーテン 代表取締役社長 具志堅 幸司 日本体育大学 学長 大林 素子 JOC スポーツ環境アンバサダー 元バレーボール選手</p> <p><モデレーター> 小谷 真生子 日経プラス10 メインキャスター</p>
---------	---

成 果	<p>今やオリンピック・パラリンピックは世界最大のスポーツの祭典にとどまらず、ビジネス・環境・福祉など、様々な方面へ大きな波及的効果をもたらす。また 2012 年のロンドン大会に代表されるように、観戦、応援のみならず、市民が積極的にボランティア活動に参加するなど、市民参加型に変貌しつつある。オリンピック・パラリンピックはアスリートだけでなく、みんなの晴れ舞台と表現しても過言ではないだろう。東京都、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会は以前から、東京大会を東京だけでなく日本全国の地域活性化や魅力向上に活用してほしいということを訴えてきた。今回のシンポジウムは東京都主催ではないが、JOC ゴールドパートナーが主体的に運営しているもので、東京大会を環境技術、あるいはアスリートの競技力を高める技術など、「テクノロジーの進化」という視点から眺め考えるという趣旨であり、大変興味をもって参加した。企業が取り組んでいる技術や最新動向などの基調講演、元オリンピック選手などが出席してのパネル討論など内容盛りだくさんであったが、特に「水素社会」についての取り組みは非常に興味深いものであった。言うまでもないが、水素は石油などの化石燃料にかわる大きなエネルギーの一つである。水素社会の実現は官民が共有すべき方向性・ビジョンであろう。東京大会は日本の先進的な取り組みを多くの国民や訪日する外国人に発信する絶好の機会として捉えているということであった。既に東京都では燃料電池バスが走り、選手村での水素利活用に向けた計画も着々と進んでいる。東京大会をレバレッジに、水素・燃料電池技術に係るイノベーションを更に加速し、成長戦略にもつなげていきたいとのことであった。</p> <p>官民連携による地方創生、特にオリンピック・パラリンピックを活用した取り組みは実に面白く、夢があると私は考える。以前に提案したホストタウン構想は実現しなかったが、他にも色々な形で活用することは可能であろう。今後も引き続き取り組んでいきたい。</p>
-----	---